

支援部便り

外部用
令和5年 1月 23日
宮城県立金成支援学校
支援部

居住地校学習アンケート 御協力ありがとうございました



県の「居住地校学習進事業」を受け実施いたしました居住地校学習では、様々な御配慮をいただき誠にありがとうございました。本校では「自分が生活する地域の同年代の友達と一緒に活動することに慣れ、地域生活の基盤を作る」というねらいの基、居住地校学習に取り組んできました。本年度は、直接訪問しての交流、リモートでの交流の両方を実施しました。それにより居住地の同年代の友達と関わる経験の少ない本校児童生徒たちが、居住地校の皆さんと共に学ぶことのできる貴重な機会を得ることができましたことに、心より感謝申し上げます。

本年度の居住地校学習アンケート結果について、まとめましたのでお知らせします。来年度、この貴重な御意見を役立てていきたいと思いをします。

名称：「居住地校学習アンケート」 回収率：100%

対象：令和4年度実施校担当者（小学校4校4学級、中学校2校2学級、本校小・中学部）

○居住地校学習を実施した本校の児童生徒数は・・・

小学部 5/14人（36%） 中学部 3/7人（43%）

○居住地校学習を実施した集団は・・・

小学部・・・通常の学級、特別支援学級 中学部・・・特別支援学級



Q1 本年度、どのような活動をしましたか？

○小学校：（受入校）特別活動、生活単元学習、自立活動

（本校）生活単元学習、遊びの指導

【活動例】直接交流・ボール遊び、ボウリング、風船バレー、体操、魚釣りゲーム等

○中学校：（受入校）自立活動、総合的な学習の時間

（本校）自立活動

【活動例】間接交流・自己紹介・ダンス・間違い探しゲーム・作業学習で作った製品紹介

Q2 児童・生徒の様子はいかがでしたか？



○受入校

- ・集中して作業に取り組む様子を見ることができた。小
- ・楽しく活動した児童が多かった。小
- ・1年生の友達が来てくれるということで、お世話したい、優しくしたいという気持ちで準備、当日も取り組んでいた。小
- ・自己紹介が苦手な児童も当日は頑張ることができ、発表に対する抵抗が少なくなったようだ。小
- ・交流を楽しんでいた。特に1年生は同級生と交流できてうれしかったと話していた。中
- ・楽しく交流することができた。中

○本校

- ・初めての居住地校学習を体験でき、落ち着いて活動に取り組むことができた。小
- ・とても楽しかった、またやりたいと話していたが、1回になり残念に思っていた。小
- ・会が進むにつれて環境に慣れて楽しく活動できた。小
- ・小学校時代の友達とリモートで話せて声が弾み、うれしそうな表情だった。中
- ・相手を意識してダンス等の発表ができた。中
- ・意欲的に取り組んでいた。中
- ・相手校のリモートへの参加を待つ間、緊張しながらも落ち着いて待っていた。中

Q3 実施して感じたことや今後の課題、配慮が必要なことは、何ですか？

○受入校

- ・こちらの学級の児童の人数が多く、支援学校の友達にとっては良かったのか心配な面があった。小
- ・直接的な交流ができたことは、こちらの児童にとっても、とてもよい経験になったと思う。小
- ・終業式の前日は避けた方がよかった。忙しかった。小
- ・居住地校区のより多くの児童と交流するためには、同学年の通常学級との交流の方が、将来のことを考えると、よいのではと思った。小
- ・今回は支援学級生徒との交流のみだったが、通常学級の生徒との交流もよいと思う。小
- ・イベント的な実施のみならず、タブレット等で月に1回くらいのミニ通信（Zoom等）ができればよい。単発だと児童が忘れてしまうので。小
- ・今回は支援学級生徒との交流だったが、通常学級生徒との交流も考えたい。中
- ・Wi-Fi環境の確認を確実にする。中
- ・オンラインでも盛り上がったので、直接話せるとより良い活動になると思った。中



○本校

- ・引率時に学校を空けることで残った先生に負担が掛かる。講師の先生に入っただけだと安心して居住地校学習に参加できる。小
- ・相手校との日程の調整が大変そうに思った。中
- ・事前打ち合わせでリモート交流をする場所のWi-Fi環境の確認も必要だと思った。中



【本校保護者の感想から】

- ・1回目の活動を喜んでいて。2回目も楽しみにしていたが中止になり、残念に思っていた。
- ・子供が楽しんで交流した様子を知り、喜んでいて。
- ・子供が楽しんでいたので、またやらせたい。
- ・帰りがけに相手校の児童から風船をもらい見送られた。子供も親もとてもうれしかった。
- ・居住地では、なかなか同年齢の子どもたちと関わる機会がないので数回でも交流できてよかった。
- ・来年度、高等部で一緒にいる生徒もいるかもしれないので、交流が実施できてよかった。



本年度は12月末までに居住地校学習を終えることができました。小学部では、直接交流が多く、初めて訪問する学校や友達に緊張はしても、次第に楽しく交流することができました。リモート交流では、画面を通しての交流に緊張の表情が見られましたが、次第に慣れて両校の生徒の笑顔をたくさん見ることができました。久しぶりに見る同級生の姿に喜びの様子も見られました。

本校の子どもたちは将来、地域で生活します。この居住地校学習をきっかけとして同年代の子どもたちやその子どもたちを取り巻く大人たちとつながり、地域に根ざした基盤作りをさせていただくことが子供たちの将来につながっていくものと思われしますので、今後とも御協力よろしくお願いいたします。